



地球人でええやんか

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催
第37回全国中学生人権作文コンテスト 文部科学大臣賞
滋賀県 東近江市立朝桜中学校 1年(当時)
木田 美映ミシエル

小学校4年の帰りにいつもの通り集団で仕事のおばちゃんとすれ違うと、不意に外国籍のおばさんが、私に「あなた何人？」と聞いてこられました。私が、日本人だと答えるとその人達がすごく笑うのでとても不思議に思い、そのことを家に帰って母に話すと「あー、今まで話してなかったけどあんたは地球人やねん。」と真顔で母は答えました。なんぼなんでも4年生の私にそんなテレビみたいなふざけた答えは通用せえへんと思ったけど、そう考えると皆と違うこともいくつか思い当たりました。そういえば私の名前は他の人に比べて長い。省略して記入しようとする怒られる。そしてお父さんの顔は、やたら濃いし、時々知らない言葉で電話している。なんぼなんでもだまされへんで！私の気持ちとは裏腹に母は話し続けました。

「あんたのお父さんは日系ペルー人や。お父さんのおじいちゃんはいギリス人で、そのおじいちゃんのお父さんとお母さんがイギリス人とイタリア人、お父さんのお母さん、すなわちおばあちゃんは日系ペルー人、そのお父さんが日本人、お母さんがペルーの人や。そんなお父さんと結婚したお母さんは日本人や。そやし、あんたは国籍は日本やねんけどいろんな国の血と誇りが混ざった代表でもあるんやから地球人でええやんか。」と…。なんとアバウトな…。

だいたいうちの母は大雑把というかなんとか一言では言い表せないところがあるとは小さいながら気付いてはいたけど、なんぼなんでも地球人なんて言い訳が通用するわけがない。「だからまじめに何人なん？」私は再度大声で確認すると「だいたいお父さんの国ではたいていの人々が色々な国の血が混じってる人ばかりやから何人何人てそんなことあんまり言わはらへんねん。だから国籍は日本やけど地球人でええやん。」小学生の私としては本当に釈然としないまま時が過ぎました。それから時々そんな話はでましたが、ことあるごとに地球人という答えしか返ってこないの、お姉ちゃんに最近その話をすると、お姉ちゃんから私の知らないお父さんとお母さんの話が出てきました。

今でこそ私の両親は私達のスポーツの応援ばかりに追われていますが、お姉ちゃんが小さかった時はお姉ちゃんを連れて学校や公民館など色々な所に外国の生活の現状を皆に話

しに行っていたようです。お父さん達日系の人が日本に働きに来て、その時子供達が言葉もわからず、学校の先生も子供も親も皆困っていたそうです。そんな中で今の生活や文化を知ってもらおうと、お父さんおばあちゃん料理教室を開いたり、民族ダンスをひろうしたり、そのダンスにお姉ちゃんも出たことがあったと話してくれました。そういえば、今も外国の民族衣装などが家にあるし、アルバムで自分の民族衣装を着た姿の家族の新聞の切り抜きがあることを思い出しました。私は母にお姉ちゃんが話していたことを聞きました。すると、「そうやねん、お父さんはあなた達子供が生まれた時に外国の子達が色々困ってる現状を見て、自分の子供が日本で暮らしやすい未来を作るぞって決心しはってん。だから、1人にできることは小さいけど、今色々な人に話す機会があるならと、仕事が終わってから遅くまで色々な活動してはった。お父さんは『今は種をまく時期や。自分の行動が子供が少し大きくなった時に芽を出して、大人になった時花咲いてたらそれは大成功や、だからがんばる』って言ってはったな。」と話してくれました。私は今の父から想像しなかった一面を聞いた気がしました。

私達が困らない世の中って？私は何に困ってる？普通に学校に行き友達も仲良くしてくれる。市役所やお店に行っても外国の人が皆と同じように働いている。そう考えた時初めてお父さんの目指していた当たり前や普通の暮らし、そしてお母さんのあのふざけた

「地球人でええやんか。」の意味がパズルの1ピースが入るように自分の中にじっくり納まって意味深い言葉であることがやっと理解できました。そうか！私のこの中に流れる血は色々な国の人の声・魂・叫び・想いが詰まっているんだ。それは私だけでなく友達もそうで脈々とつながる血のリレーが私達に受け継がれているんだということ。だからこそ精一杯生きてよい世の中を次の未来につないでいかないといけないのだということが。

私はやっとわかりました。当たり前や普通のありがたさを。そしてそれは以前あった人達の苦労の上にあるということも。先生。今度私は誰かに「何人？」って聞かれたら「地球人でええやんか。」ちょっとお茶目なこの切りかえしを、みんなにも使ってみようかな？と思うのです。



～共に生きる多文化共生の社会づくり～

日本には約 300 万人、近江八幡市には約 2,000 人(2023 年 12 月末時点)の外国人が住んでいます。今や外国人は、あらゆる場面で日常的に出会うとても身近な人たちになりました。しかし、言葉や宗教、生活習慣の違いから生活の様々な場面でトラブルも発生しています。どうしたら、私たちはお互いに気持ちよく生活できるでしょうか？



『やさしい日本語』を使ってみよう！

『やさしい日本語』は、外国人等に配慮してわかりやすい言葉や表現に言い換えた日本語のことです。『やさしい日本語』を使えば、日本語があまり得意でない方と話すことができます。「やさしい」には、簡単な言葉を表す「易しい」と、相手に配慮する「優しい」気持ちで話すといった、二つの意味が込められています。

【例】・土足厳禁 → 靴くつを脱ぬいでください。

・来月は授業参観があります。 → 来月はお父ちちさんやお母かあさんが授業じゅぎょうを見みます。

・参加費無料 → 参加するときにお金はいりません。

★やさしい日本語の話し方のポイント★

- ・全体的にゆっくり話し、言葉ははっきりと発音する。
- ・一文は短く、伝える情報は一つだけにする。
- ・簡単な言葉で、あいまいな表現をせず、具体的に伝える。
- ・難しい言葉や外来語（カタカナ語）はできるだけ使わない。



問いかけ

- ・身近な場所で日本語に不慣れな外国人と出会ったとき、あなたならどのように接しますか？
- ・外国人と一緒に地域で生活する中で、近所の住民としてできることはどのようなことですか？

ヘイトスピーチ、許さない。

特定の国の出身者であること等を理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの一方的な内容の言動が、一般に「ヘイトスピーチ」と呼ばれています。ヘイトスピーチは、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。多様性が尊重され、不当な差別や偏見のない成熟した共生社会の実現を目指す上で、こうした言動は許されるものではありません。

《関連する法律》

- ・本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律《ヘイトスピーチ禁止法》【平成 28 年（2016 年）】